

第 1 章

基本姿勢（背景・目的）



1-1

観光振興計画改定の主旨

前計画（網走市観光振興計画 2019）は 2019 年 4 月から 2024 年 3 月までの 5 年間を見据えた計画として策定しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、長期間の先行きを見通すことが困難であることから、新計画の策定を見送り、計画期間を 2025 年度末まで 2 年間延長しました。前計画策定から 7 年が経過し、その間の観光市場は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行という未曾有の事態を経て、大きな変革期を迎えました。一時は国内外の移動が制限されたものの、現在は回復期にあり、インバウンド観光客は再び増加傾向にあります。また、旅行者の価値観や志向も多様化し、地域固有の体験、サステナブルツーリズム、デジタルノマドなど、新たなニーズが浮上し、旅行・宿泊業界は急速に変化するトレンドに直面しています。

前計画に関する進捗状況を見ると、「交通環境の利便性向上による観光客の流入促進と回遊性の向上」や「観光振興を牽引する組織体制の構築および人材の発掘と活用」の面では一定の進捗が見られました。

しかし、観光入込客数は 2023 年度目標の 199 万人に対し、2024 年度時点においては 156.8 万人（達成率 78.7%）に留まっています。また、「自然資源・文化・社会資源を活用した網走型観光の確立」や「滞在コンテンツの磨き上げと開発、効果的な情報発信による網走の魅力を高める環境整備」では、食と観光の PR 強化や体験型観光の拡充に努めてきましたが、滞在日数や観光消費額の向上には課題が残り、宿泊客数も目標の 46 万人に対し、2024 年度時点で 39.6 万人（達成率 86.0%）と、継続的な取組が必要です。

本計画は、「網走市総合計画 2018－2027」に掲げる「めざすまちの姿」を踏まえ、網走の持つ特長や地域資源の魅力・課題を整理し、さらには、その戦略版である第 3 期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2025 年度～2029 年度）の施策の方向性とベクトルを合わせ、行政をはじめ観光関連事業者と地域が一体となった持続可能な観光として、SDGs との関連性を意識した施策を展開します。その上で、2026 年度より網走市で導入が開始される宿泊税を財源として、観光を巡る近年の動向やコロナ禍を経た観光需要の変化に応じた観光振興施策を講じるべく、網走市観光振興計画 2026 を策定します。

なお、本計画の期間は 2026 年度～2030 年度までの 5 年間とします。

1-2

めざす姿

「網走市総合計画 2018－2027」では、本格的な人口減少・少子高齢化社会の進行により、生活基盤の維持さえ困難な時代を迎えようとしている中、網走の持つさまざまな魅力を最大限に活かしたまちづくりを進めることにより、この難局を乗り越え、10年先も豊かで美しい自然の中、ひと・もの・まちが輝き続け、誰もが健康で安心して暮らすことのできるまちを将来像としています。

網走市の将来像

豊かな自然に
ひと・もの・まちが輝く
健康都市 網走

本計画においても、前計画に引き続き、「網走市総合計画 2018－2027」に掲げる「網走市の将来像」を踏まえ、その方向性を達成するために観光分野においてどのような視点で寄与できるかを考えます。